



★「うさぎとかめ」のもう1つの話★

昨日紹介した「うさぎとかめ」のもう1つの話である。

1. もしも かめよ かめさんよ
せかいのうちに おまえほど
あゆみの のろい ものではない
どうして そんなに のろいのか
2. なんと おっしゃる うさぎさん
そんなら おまえと かけくらべ
むこうの 小山(こやま)の ふもとまで
どちらが さきに かけつくか
3. どんなに かめが いそいでも
どうせ 晩(ばん)まで かかるだろう
ここで ちょっと ひとねむり
グーグーグーグー グーグーグー
4. これは ねすぎた しくじった
ピョンピョンピョンピョン
ピョンピョンピョン
あんまり おそい うさぎさん
さっきの じまんは どうしたの

その話に入る前に、みんなのよく知っている「うさぎとかめ」の歌の歌詞を紹介しよう。

みんなが幼い頃この絵本を見たことある人は、



こういうように「山の頂上」で喜ぶかめの姿を見たことないか!

し・か・し!!

歌詞の2番には小山のふもとまでとあるのに!
これはもしかするとカメもウサギもゴールを間違えたのかもしれない。

カメの間違ったゴール! このカメの姿をみて、ウサギは負けたと思い込んでしまったのかもしれない。

とにかく、きちんとしたゴールを設定し、確実にそこを目指すということはとても大切なことである。

1番の歌詞は有名だが

2番まであるとは
知らずか、E.A.がある

3月の新聞記事より

新型コロナウイルスで気付いた日常
(みやま市高校生)

「新型コロナウイルス」。昨年最も耳にすることが多かった言葉ではなかったか。そして、これからもその言葉と付き合っていかなければならないだろう。

新型コロナウイルスで大きく生活が変わった。楽しみにしていた高校生活もいつもより始まるのが遅れ、運動会や文化祭までも中止になってしまった。

そのことを聞いた時、私はあることに気が付いた。今までの生活がどれほど大切なものだったのかということだ。友達と話したり、笑い合ったり、一緒に授業を受けたりする何げない日常。運動会や文化祭でしか感じることもできない、あの気合いとみんなの心が一つになる瞬間。

コロナウイルスがなければ気づくことができなかった。コロナ禍を過ごしたからこそ皆さんのことを学ぶことができた。だから私は、今まで通りの生活ができるようになったらコロナ禍で感じたことを心に留めて、友達と楽しく学校生活を送っていききたいと思う。

